

# たかだいし

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

## 教育調査の結果について

副校長 米山 美智子

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。少しずつ、今まで制限されていた活動ができるようになったり、新たな取組が始まったりとこの一年も子供たちと共に歩んでまいりました。今年度も残すところあとわずかとなりました。一年間のまとめをしっかりとして、次の学年へ進級できるように指導してまいります。

さて、昨年末に実施した教育調査結果をお知らせいたします。今年度も昨年に引き続き、オンラインを活用したアンケート調査となりました。お便りの他、メールでもすぐにご回答いただけるようお願いをしましたが、回答率が 67.0%（令和3年度は 83.8%）と昨年度より 16.8 ポイントも低い結果となりました。いただきました結果を真摯に受け止めて今後の教育活動に生かしていきたいと思います。集計結果につきましては裏面（中ページ）にまとめましたのでご覧ください。

### 1 調査結果より成果と課題について

#### 【成果】

今年度も、昨年度同様、感染症対策のため、通常の学校公開ではなく、学級内的人数を減らした分散型の授業参観や時間を制限した保護者会などで、なかなか子供たちの学校生活の様子をご覧いただく機会がもてませんでした。そのため、まだまだ学校の様子も伝わりにくいことばかりだったと思います。保護者の方による調査の回答を見ると、多くの項目で昨年度より肯定的評価（とてもそう思う+ややそう思う）が低い結果となっています。しかし、その中でも「学校生活全般」「教材教具（ICT）」「体育・健康新聞」、学校独自調査項目の「経営方針（高四小に子供を通わせてよかったですと思う）」「学校の取組発信」と、多くの項目で肯定率が 80%を超える高い評価をいただけたことは今後の励みになります。また、今年度は、小中連携の取組として、神明中学校の生徒会の訪問や、遊びのフェスタ、部活動体験などの直接の交流活動ができたことや、近隣の幼稚園・保育園と1年生、5年生の直接交流がようやくできるようになりました。地域との連携もより深めることができました。

そして今年度は、全校児童がタブレットパソコンで調査を行いました。児童の回答結果では、「学級経営」「教材教具（ICT）」「経営方針（学校で友達に会いたいと思って登校している。）」「総合的な学習の時間の工夫」「基本的生活習慣の指導」「生き方科の学習」について、肯定率が 80%を超えました。特に、「教材教具（ICT）」については、90%を超える肯定率でした。これは、今年度、本校の校内研究でデジタル教科書や電子黒板の活用のみならず、一人一台専用タブレット端末を活用した授業への様々な取組を授業実践してきたことが子供たちにも評価されたものと考えます。また、「探求の学び」や「協働的な学び」の肯定率が昨年度より高い結果となりました。これは、子供たち自身も自分の課題や問題を探究する学びの方法を身に付けたり、ICT 機器を活用して協働的に学ぶことを楽しんだりすることができたと実感をもてたことによるものと考えます。

そして、今年度新たに取り組んできた「生き方科」の学習では、子供たちの 83.6%が担任以外の教員やゲストティーチャーによる授業が楽しく学びがあると回答しています。教員にとどまらず自分の学級だけでなく、目の前の子供たちに生き方を語る新しい授業作りは教育的価値や自分の指導の幅を広げることつながると、88.9%が肯定的にとらえています。来年度もより有意義な学習になるよう工夫して行なっていきます。

特別支援教室の「たかし教室」や「ことばの教室」に通う子供たちや保護者の方にもご回答いただきました。この教室で学ぶことを楽しみにしていること、子供たちの在籍学級での学びに活かされていることが高い結果として表していました。

#### 【課題】

保護者の方の回答において「教育相談体制」が 48.9%、「いじめ・不登校の対応」が 47.0%と低い結果となりました。「いじめ・不登校の対応」、「教育相談体制」については、「どちらともいえない」と回答した割合が多くありました。毎週金曜日に来校しているスクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーター、生活指導部、不登校対策委員会など、今後もいじめや不登校についての対応は、ご家庭との連携も含め、全教職員で未然防止、早期発見に努め、組織的な対応に努めてまいります。

### 2 来年度の高四小の教育について

教育調査に寄せられたご意見や学校運営協議会でいただいたご意見をもとに、子供たちのよりよい学校生活を目指して教職員一同さらに努力してまいります。来年度も友達や先生に会いたい、いろいろな人とかかわり、共に学びたいと思われる学校づくりを目指していきたいと考えます。今後ともご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。

## 令和4年度 教育調査 集計結果【肯定率】

1 保護者（全学年）の回答

[回収率：67.0% R2年度 83.8%]

No.	領域・観点	質問内容	R4年度	R3年度
1	学校生活全般	子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。	80.7%	84.5%
2	一貫教育/ 異校種の協働	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	43.2%	40.5%
3	学校評価	学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。	57.1%	66.6%
4	学級経営	学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。	75.7%	83.6%
5	学習成果の実感	子どもは、学校で学ぶことにより、必要なときに、必要なことを、自ら学んで身に付けることができる力が育っている。	66.1%	71.6%
6	学習評価	学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。	73.6%	79.2%
7	教材教具（ICT）	学校は、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。	80.0%	67.7%
8	道徳教育	子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。	77.1%	84.5%
9	体育・健康教育	子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。	83.2%	88.3%
10	教育相談体制	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている。	48.9%	63.9%
11	特別支援教育 研修・理解啓発	学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。	47.9%	58.4%
12	特別支援教育 交流及び共同学習	子どもは、特別支援学校や特別支援学級の子どもと交流したり、一緒に活動したりする機会がある。	31.4%	30.8%
13	地域と共に 在る学校	学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。	74.6%	81.5%
14	経営方針①	子どもは、友達や先生に会いたいと毎日登校していると思う。	76.1%	80.1%
15	経営方針②	高四小に子供を通わせてよかったと思う。	81.4%	86.5%
16	経営方針③	高四小は、地域から愛されていると思う。	82.9%	88.0%
17	組織運営	教職員は、様々な課題や問題に力を合わせて取り組んでいる。	71.5%	80.9%
18	授業の工夫	学校の授業はわかりやすく教えている。	70.0%	76.8%
19	学習評価	子どものよいところを認め、個人面談やノート・作品の評価、通知表等で子供の学習状況が分かるように伝えている。	69.4%	82.4%
20	基本的生活習慣の 指導	子どもたちに、あいさつやきまりを守ること等、集団生活をする上での基本的な生活習慣が身に付くように指導している。	79.6%	85.9%
21	学校の取組発信	学校の考え方や取組を、学校・学級だよりや参観・保護者会等を通して、保護者に伝えている。	84.3%	85.9%
22	いじめ・不登校の 対応	学校では、いじめや不登校に対し、未然防止、早期発見、解決に向けて、組織的に対応し、指導している。	47.0%	55.7%
23	施設設備の 安全管理	施設・設備の定期的な点検とともに、安全に留意した学習計画を立てて取り組んでいる。	66.8%	76.2%

※No.1～13までは、杉並区の質問項目 No.14～23は、学校独自の質問項目となっています。

「たかし教室」や「ことばの教室」に通級されているお子さんと保護者の皆様にもご回答をいただきました。

ご協力ありがとうございました。「学習成果の実感」（通指導学級・特別支援教室で学ぶことによって、子どもは在籍している学級の授業への参加がしやすくなっている。）では、昨年度より肯定的にとらえている保護者の方の割合が10ポイント以上も高い結果となりました。今後も「たかし教室」や「ことばの教室」の教員と在籍学級の担任との連携を深め、さらに一人一人の子供たちの学びが充実するよう、全教職員で努めてまいります。

## 2 児童（1～6年）の回答 [ R3は、3～6年での実施 ]

No.	領域・観点	質問内容	R4年度	R3年度
1	学級経営	先生は、クラスのみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。	81.1%	83.7%
2	個別最適な学び（学習の個別化）	授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。	65.8%	71.5%
3	個別最適な学び（指導の個別化）	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	58.7%	53.3%
4	探究の学び	授業では、自分の興味に基づいて問い合わせや課題を立てて学んでいる。	62.2%	57.3%
5	協働的な学び	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	78.3%	75.2%
6	学習成果の実感	学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	79.8%	83.7%
7	学習評価	先生は、授業で自分ができたことを褒めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	75.5%	76.0%
8	教材教具（ICT）	先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	92.3%	90.7%
9	系統的・連続的指導	先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	65.1%	77.2%
10	道徳教育	道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	72.7%	78.0%
11	読書活動	学校や家などで、一か月間に本、新聞、雑誌、調べ物をするための資料などを読んだ。	76.0%	
12	体育・健康教育	先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	75.8%	80.9%
13	地域と共にある学校	地域の行事に参加している。	46.9%	37.0%
14	地域と共に在る学校	先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	59.7%	65.0%
15	経営方針①	学校で友達に会いたいと思って登校している。	85.3%	88.6%
16	経営方針②	学校で先生に会いたいと思って登校している。	60.2%	61.0%
17	主体的・対話的な学び	先生は、自分の考えをわかりやすく表したり、発表したりする力を付けるように学習をすすめてくれている。	71.4%	79.7%
18	総合的な学習の時間の工夫	先生方は、総合的な学習の時間に、いろいろな方法で学べるようにしてくれる。	80.1%	80.1%
19	学習評価	先生は、ノートや作品、通知表などで、あなたの学習面のよいところを認めてくれる。	75.7%	82.5%
20	基本的生活習慣の指導	先生は、私たちがあいさつをしたり、学校のきまりを守ったりするように指導してくれる。	84.1%	87.8%
21	いじめ・不登校の対応	先生は、いじめや不登校を解決するために、相談にのったり、話し合ったりしてくれる。	69.8%	68.7%
22	生き方科の学習	生き方科の学習でいろいろな先生やゲストティーチャーの話を聞くことは楽しく、学びがある。	83.6%	

※No.1～14までは、杉並区の質問項目 No.15～22は、学校独自の質問項目となっています。

## 3 特別支援教室（たかし教室）・通級教室（ことばの教室）の回答

### 【保護者】

[ 回収率 : 58.5% ]

No.	領域・観点	質問内容	R4年度	R3年度
1	学習成果の実感	通指導学級・特別支援教室で学ぶことによって、子どもは在籍している学級の授業への参加がしやすくなっている。	97.4%	86.1%
2	経営方針①	「たかし教室」または「ことばの教室」の友達に会いたいと思って通級していると思う。（「たかし教室」のみ回答）		53.8%
3	経営方針②	「たかし教室」または「ことばの教室」の先生に会いたいと思って通級していると思う。	97.4%	94.4%

### 【児童】

[ 回収率 : 55.4% ]

No.	領域・観点	質問内容	R3 年度	R2 年度
1	経営方針①	「たかし教室」または「ことばの教室」の友達に会いたいと思って通級していると思う。（「たかし教室」のみ回答）		38.5%
2	経営方針②	「たかし教室」または「ことばの教室」の先生に会いたいと思って通級していると思う。	88.9%	73.1%
3	個に応じた指導	授業では、自分の得意な部分を伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、先生が自分用の教材や用具を用意してくれている。	86.1%	92.3%
4	学習の成果	ここ（通級）での学習によって、分かることやできることが増えている。	86.1%	100%
5	学習評価	通級の先生たちは、授業でできたところをほめてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	88.9%	96.2%

## 令和4年度 学校関係者評価委員会の結果より

去る2月17日(土)に、連携中学校である杉並区立神明中学校の山内 清一校長先生にご参加いただき、学校運営委員の皆様と学校関係者評価委員会を開催いたしました。区の教育調査および本校独自の調査項目の結果や校内の自己評価について報告を行った後に、評価委員の皆様よりご意見をいただきました。当日いただきましたご意見の主な内容についてご報告させていただきます。

### ◆「学校生活全般」の調査結果について

- ・「子供の学校生活は、全体として満足できるものである。」については、全校で見れば、80.7%の保護者が肯定的にとらえていることがわかる。学年ごとにみると、保護者の肯定率は多少ばらつきがあるが、児童の学級経営に関する項目「先生は、クラスのみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている」では肯定率が全校で81.1%と高い結果となっている。

### ◆「ICT機器の活用」と「育てたい力」について

- ・ICT の活用に関する調査の肯定率をみると、教員は 100%、保護者は、80.0%、児童は、92.3%と、高い割合で、効果的に活用していくことはよいと思うが、「読む」ことも子供たちはデジタルが多くなっているのだろうか。
- ・最近は、大人も本を買わずにスマホなどで読むことが増えているが、子供たちの読む力はどうなのだろうか。一人一台のタブレット PC を活用して、書字の苦手な子供がタブレット PC なら文章をたくさん書くことができるということもあるようだが、書く力と同様に、読む力も落ちていないのだろうか。

(教育調査の児童の読書に関する結果:「学校や家などで、一か月間に本、新聞、雑誌、調べものをするための資料などを読んだ。」について、全学年で 76.0% であった。)

- ・ICT 機器のよさとアナログのよさの両方のよさをうまく指導に取り入れていくことが大切。
- ・中学校でも ICT 機器も活用するが、「書く」ことの指導にも力を入れている。中学 3 年生も中学 1 年生から文章を書く習慣を付けてきたことで、ずいぶん文章力も付いた。
- ・中学校としては、小学校で我慢する力やがんばる力、困難を乗り越える力を育んでほしい。最近は、すぐあきらめてしまう子供たちが多いように感じる。しなやかな柔軟な考え方ができるようになってほしいと思う。そして、中学では、書く力、読む力、表現する力、いろいろな力を育てていきたい。
- ・幼稚園でも、年少のころから自分でお箸も鉛筆も持つようにしたり、自分の意見をしっかり言わせたりしている。そのために教師は、幼児の表現に口を挟まないようにしている。
- ・世の中のニュースに出てくる若者の様子を見ていると、これから教育の在り方はどうすればよいのか考えさせられる。
- ・中学校は、その先の高校受験というものがあるが、学力を付けるだけでなく、人としての力を育てたい。そのために、日頃の担任と生徒との人間関係を大切にして、子供たちの特性を見極めながらいろいろな力を伸ばしていくことが大事。
- ・コロナの感染症対策としての制限がある中でも、できるだけいろいろな活動を行って、子供たちを育てていきたい。



今年度は、連携する幼稚園、保育園との直接の交流活動も、神明中学校との交流活動も実施することができました。直接交流することや本物に触れる体験は、子供たちの感性を豊かにし、学びを深めていると、改めて感じた一年でした。

ICT 機器を活用して遠隔でも多様な活動が可能になる反面、人と人との直接の交流や、文章を「読む・書く」、「聞く・話す」活動を通して表現する力を身に付けることも大切で、今後もデジタルとアナログのそれぞれのよさを指導に取り入れて指導の工夫を図っていきたいと考えます。